第５回湿原再生小委員会

1.幌呂地区の湿原再生目標の概要

1-1.湿原再生小委員会の位置付け

1-2.幌呂地区のエリア区分

1-3.幌呂地区の湿原再生目標

2.幌呂地区　平成20年度の調査結果

2-1.地下水位観測結果

2-2.植生調査結果

2-3.ハンノキ生長量調査結果

3.平成21年度の予定

3-1.湿原再生に向けた現地試験計画

3-2.現地試験の実施

1.幌呂地区の湿原再生目標の概要
1-1.湿原再生小委員会の位置付け

湿原再生小委員会は、全体構想の目標のうち、「湿原生態系の質的量的回復」について検討を行っている。

【目指すべき姿】＝再生に携わる人が共有できる将来像、夢

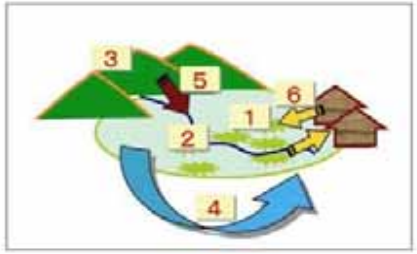
○シマフクロウ・イトウなどの生き物が暮らし、人々に恵みを持続的にもたらしてくれる湿原
○ラムサール条約登録前のような湿原環境

【目標】＝流域全体としての到達すべき３つの目標

1. 湿原生態系の質的量的な回復（生物環境）
2. 湿原生態系を維持する循環の再生（物理・化学環境）
3. 湿原生態系と持続的に関われる社会づくり（社会・経済環境）

【施策】＝各目標を達成するための６分野における具体策

1. 湿原生態系と希少野生生物生息環境の保全・再生
3. 湿原・河川と連続した丘陵地の森林の保全・再生
2. 河川環境の保全・再生
4. 水循環・物質循環の再生
5. 湿原・河川・湖沼への土砂流入の防止
6. 持続的な利用と環境教育の促進



湿原植生の復元、生息環境の保全、外来種の除去など

森林の回復・復元、生態系に配慮した施業の実施など

蛇行河道の復元、氾濫原の回復、連続性の確保など

地下水位の保全・復元、流入水の水質の修復など

生産源での流出の抑制、湿原への流入量の軽減など

環境教育の充実、再生への市民参加の促進、利用ルールづくりなど

【評価基準】＝各施策が達成されたかどうかを評価するための基準

湿原面積、希少種の個体数、外来種の分布面積など

森林面積、樹木サイズ、森林性動植物の種数など

河川形状・冠水頻度の多様性、河川性動植物の種数など

地下水位、栄養塩負荷量など

流砂量、土砂堆積量など

指導者数、行事数、利用による負荷、地域の自然や産業への理解量など

湿原再生小委員会　**森林再生小委員会**　**旧川復元小委員会**　**水循環小委員会**　**土砂流入小委員会**　**再生普及小委員会**

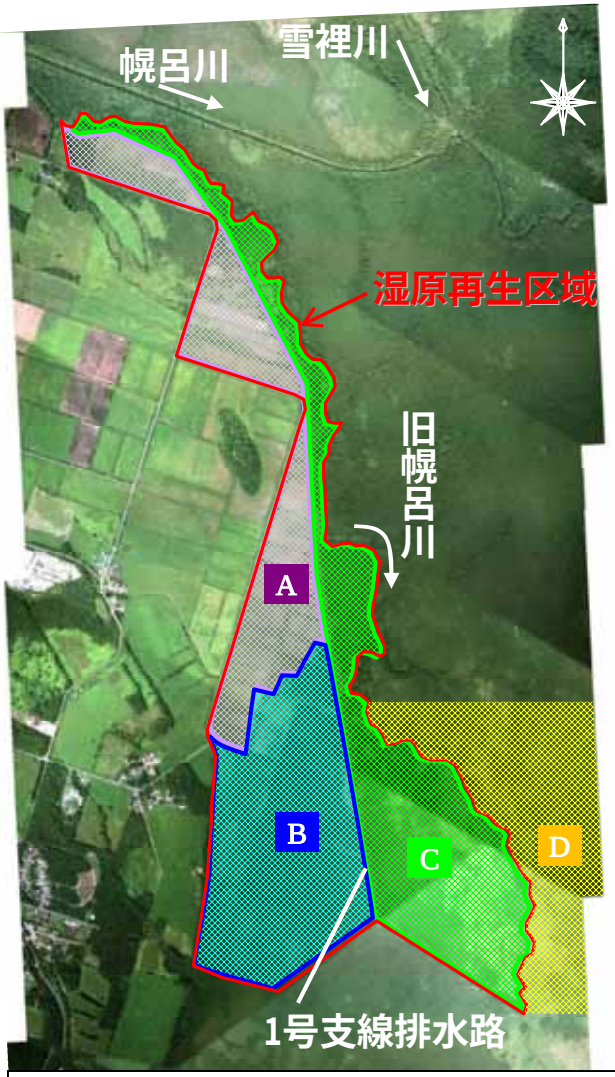
1-2.幌呂地区のエリア区分　第4回湿原再生小委員会での議論内容

第4回湿原再生小委員会(平成20年3月3日開催)において、幌呂地区のエリア区分を行い、『ワンランク上』の湿原を各エリアのリファレンスサイト(目標)として設定した。

区域	改変の内容	地下水位低下の影響の程度
A	幌呂川の切り替え、排水路網の整備、表土の改変	大
B	幌呂川の切り替え、排水路網の整備	中
C	幌呂川の切り替え、1号支線排水路の整備	中～小
D	幌呂川の切り替え、	小

【幌呂地区の湿原再生の考え方】
・影響の程度が小さい『ワンランク上』の湿原を再生の目標像として取り組んでいく。

【リファレンスサイトの設定】
・A のリファレンスサイトを B とする。
・B のリファレンスサイトを C とする。
・C のリファレンスサイトを D とする。



幌呂地区のエリア区分図

1-3.幌呂地区の湿原再生目標　第4回湿原再生小委員会での議論内容

第4回湿原再生小委員会(平成20年3月3日開催)において、幌呂地区湿原再生事業の目標を「湿原面積の回復」、「湿原植生の回復」、「湿原景観の復元」と設定した。

幌呂地区の課題

生産性の高い酪農経営の実現を目指し、1970年代から80年代にかけて各種土地改良事業が実施され、農地造成や排水路整備などの生産基盤の整備が図られた。

その結果、湿原の保全という観点から見て、下図の現象や課題が生じた。

現象

- 冠水頻度の減少
- 地下水位の低下

課題

- 湿原面積の減少(湿原→農地)
- 湿原植生の変容(ヨシ→ハンノキ林)
- 湿原景観の喪失

幌呂地区湿原再生事業の目標

全体構想の「湿原生態系と希少野生生物の生息・生育環境の保全・再生」に関する目標

- 良好な湿原の保全
- 湿原の希少な野生生物の生息環境の保全・復元
- 湿原周辺の未利用地等の回復・復元

幌呂地区の課題と全体構想の目標を踏まえて目標を設定

【幌呂地区の湿原再生目標】

■台地から湿原までの間の湿原移行帯からなる湿原環境の再現

■高層湿原や赤沼、池塘等、周辺湿原を含む地下水、表流水など良好な水環境の回復

目標

- 湿原面積の回復
- 湿原植生の回復
- 湿原景観の復元